

感染状況・医療提供体制の分析（令和4年12月27日時点）

【令和4年12月28日 モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ※①～④は7日間移動平均で算出	前回の数値 (12月21日公表時点)	現在の数値 (12月27日公表時点)	前回との比較	これまでの最大値	項目ごとの分析
感染状況	①新規陽性者数※1 (うち65歳以上)	16,324.3人 (1,488.4人)	17,423.0人 (1,609.7人)	→	32,099.9人 (2022/8/3)	総括コメント 感染が拡大している 新規陽性者数の7日間平均は、9週間連続して増加傾向にある。季節性インフルエンザが流行入りした中、年末年始は警戒感が薄れるおそれもあり、新規陽性者数の増加をできる限り抑制するため、基本に立ち返って、感染防止対策を徹底する必要がある。 個別のコメントは別紙参照
	②#7119（東京消防庁救急相談センター）※2 における発熱等相談件数	127.1件	144.9件	↗	257.9件 (2022/7/25)	
	③検査の陽性率（PCR・抗原） (検査人数)	39.5% (20,241人)	40.0% (21,196人)	→	52.2% (2022/8/7)	
医療提供体制	④救急医療の東京ルール※3の適用件数	242.3件	252.6件	→	309.7件 (2022/7/24)	総括コメント 医療体制がひっ迫している 入院患者数は、約4か月ぶりに4,000人を上回った。医療機関では、一般救急受診等の増加や、医療従事者等の就業制限により、通常の医療との両立に支障が生じつつあり、医療提供体制がひっ迫してきている。 個別のコメントは別紙参照
	⑤入院患者数 (病床数)	3,862人 (6,135床)	4,184人 (6,046床)	→	4,459人 (2022/8/20)	
	⑥重症患者数 人工呼吸器管理（ECMO含む）が必要な患者 (病床数)	42人 (260床)	49人 (260床)	↗	297人 (2021/8/28)	

※1 医療機関及び東京都陽性者登録センターから報告のあった新規陽性者数の合計を計上（都内の空港・海港検疫にて陽性が確認され、都に報告された分を除く）

※2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

※3 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータによる
都民年代別ワクチン接種状況
(令和4年12月26日現在)

都内全人口			12歳以上			高齢者(65歳以上)			
2回目 80.9%	3回目 66.4%	オミクロン株対応 34.8%	2回目 87.6%	3回目 72.6%	オミクロン株対応 38.3%	2回目 93.2%	3回目 90.0%	4回目 81.9%	オミクロン株対応 63.8%





総括コメントについて

1 感染状況

<判定の要素>

- モニタリング項目に加え、地域別の状況やワクチン接種の状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、感染状況を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>





-  大規模な感染（拡大）が継続している／感染の再拡大の危険性が高いと思われる
-  感染が拡大している／感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である
-  感染拡大の兆候がある（と思われる）／感染状況の推移に注意が必要である
-  感染者数が一定程度に収まっている（と思われる）

2 医療提供体制

<判定の要素>

- モニタリング項目に加え、療養者の年齢構成、重症度、病床の状況やワクチンの接種状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、医療提供体制を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>

-  医療体制がひっ迫している／通常の医療が大きく制限されている（と思われる）
-  体制強化が必要な状況である／通常の医療が制限されている状況である
-  体制強化の準備が必要な状況である／通常の医療との両立が可能な状況である
-  平時の体制で対応可能であると思われる／通常の医療との両立が安定的に可能な状況である

（注）通常の医療：新型コロナウイルス感染症以外に対する医療（がん、循環器疾患等の医療）